

平成 30 年 11 月の市民の声（全 13 通のうち 11 通）

◇バス停への屋根設置について

【ご意見・ご提案など】

8月の末に白内障の手術を受け運転ができないため、市バスを利用することになりました。その日は雨が降っていて傘をさしてバスを待っていたのですが、浦佐の町内はバス停に屋根があるところがありません。他の地域ではあるのですがとても不便に感じました。これから雨のみでなく雪も降ってきます。ふきざらしでは病人には大変です。もし現場が無理でしたら、どこか建物のある所をお借りすることはできないでしょうか。よろしくお願いします。

今回の市政ポストは大変良いことだと思います。広く市民からの声が届くよう続けてください。

（平成 30 年 11 月 19 日）

【お返事】

市内のバス停につきまして、屋根がないことでご不便をおかけし申し訳ありません。

現在、市内に設置してあるバス停の待合小屋については、行政区やバス事業者、バス停付近の事業者等のご厚意によって設置されたものが主になります。現状では、市がバス停に屋根付きの待合を設置することは難しい状況です。

記載いただいた住所から、市民バスの北越銀行前バス停をご利用いただいていると推察いたします。市民バスの北越銀行前バス停につきましては、道路に路線バスの停車スペースが確保されていることもあり、安全に乗り降りすることができるとの理由から、路線バスの毘沙門堂前バス停と同じ場所に設置しております。バス停の隣の家の方からは、バス利用者が軒先でバスを待つことにご理解をいただいておりますので、バスが来る時間に合わせてバス停に移動する等の対応をお願いできないでしょうか。

建物のある場所へのバス停移設については、建物所有者の

同意を前提として、関係行政区の総意として要望いただくこととなります。その後、バス事業者、道路・交通管理者等と協議を行い、地域公共交通協議会の同意を得て、運輸支局への認可手続きを経ることにより可能となります。まずは、行政区長などへ、地域の総意として要望できるかご相談ください。

市として、すぐにご希望に沿う返答ができず申し訳ありません。

いただいたご意見は、今後の公共交通施策に生かしていきたいと考えます。

(担当：都市計画課)

問合せ：秘書広報課 ☎ 773-6658

◇市民病院での投薬について

【ご意見・ご提案など】

眼科を市民病院で受診している者ですが、次回の受診までに目薬が不足となり薬のみにしてほしいとTELしたところ午前 11 時まで薬の受付をし、午後 4 時以降に取りに来てくださいとのこと。え？2 回も行くの。

73 歳の私は 4 時以降の運転は怖い。何で足元の明るいうちに 1 回ですまないのか合点がいきません。足のない人はなお大変ですよ。ぜひご検討ください。

(平成 30 年 11 月 19 日)

【お返事】

ご意見をいただきました薬の受けつけにつきましては、薬の処方のみであっても、医師がカルテを確認し処方箋を作成する必要があります。しかし、医師は外来の診療や手術などにより、すぐに処方箋を作成することが難しい状況にあります。そこで、処方箋を作成する間お待たせしないように、午前 10 時まで受けつけをし、午後 4 時以降に処方箋を取りに来ていただく方法をとらせていただいています。

1 回の来院での投薬を希望される場合は、通常の外来受診と同様に、受付をして診察後に薬の処方箋をお渡しする手順となります。この場合、診療予約や状況により外来でお待ちいただくこととなります。

このたびは、2 回の来院になるものの、待ち時間が生じないようなご案内をさせていただいたところですが、2 つの方法があることについての説明が不足しており申し訳ありませんでした。

今後も一人でも多くの患者さんに、より良い医療を提供できるよう努力してまいりますので、ご理解いただきますようお願いいたします。

(担当：市民病院医事課)

問合せ：秘書広報課 ☎ 773-6658

◇市民病院への感謝

【ご意見・ご提案など】

内科の大西先生をはじめ、外科の広田先生には受診のたびにいろいろアドバイスや生活改善、相談（症状が出ることに對する不安）など、あらゆる面において、いつも丁寧に話をしてくれてありがとうございます。

これからも相談等をして早く症状がよくなるように見守っていただきたいと思います。

（平成 30 年 11 月 19 日）

【お返事】

うれしいお言葉をありがとうございます。いただきましたお言葉を励みに、今後も地域の皆さまに頼りにされる市民病院を目指して、職員一同、努力してまいります。

（担当：市民病院医事課）

問合せ：秘書広報課 ☎ 773-6658

◇市内の企業について

【ご意見・ご提案など】

南魚沼市はもちろん、地方の人口減が加速しています。私の娘も関東の大学に行っていますが、卒業後帰ってきたいみたいです。現在の南魚沼市の企業の状態では就職場所がありません。

よって次のことを望みます。

- (イ) 給与水準の高い企業を増加するために市ができること
- (ロ) 観光に力を入れる
 - ① 魚沼スカイラインの整備、群馬のようなトレイルみたいな登山道の整備
 - ② 市街地の活性化のためにプロフェッショナルに出た建築士に協力
- (ハ) 国立県立の大学と提携し学生がお金がかからない勉強スタイル
- (ニ) 経営者の意識改革
- (ホ) 市役所の人と一般の人との交換派遣

(平成 30 年 11 月 20 日)

【お返事】

- (イ) 平成 29 年度の大学卒業者の初任給平均額は、新潟市が 201,000 円、南魚沼市が 211,000 円となっています。首都圏と比較すると低い給与水準ですが、県内では比較的平均給与が高い地域といえます。しかしながら、若い方が帰ってきたくなる大きな要因は、働きたい仕事の内容と、より収入が多いことと考えます。今後も市内企業が設備投資における税の減免制度など、各種制度を積極的に活用いただき、市内企業の生産性が高まり、業績が向上するよう支援し、給与水準が上がるよう努めていきます。
- (ロ) ① 巻機山や八海山など市内にある主な山は、県と協力しながら毎年登山道の整備を進めているほか、市の山岳救助隊などにより定期的に草刈りなどの管理を行っており、市内外から多くの登山者が訪れてい

ます。また、今年9月に近隣7自治体で組織する雪国観光圏で、総延長307キロのロングトレイルコースをオープンしました。今後一層の広報活動に努め、多くの利用者をお迎えできるようにしたいと考えています。魚沼スカイラインにつきましては、管理者は新潟県であります。より多くのお客様が訪れる場所になるよう、随時要望をしていきます。

- ④ 六日町駅前通りは当市の中心市街地ですが、商店の後継者不足による閉店や廃業などで、空き地が出ています。沿線部のアーケードも含め、建物は民間の財産ですので、行政が直接整備をすることは難しいと考えます。街の活性化については、商店街や商工会などと意見交換を行っており、その中で観光客を増やす方法などについて話し合っています。ご意見をいただいた建築士の協力については、意見交換の際に提案します。

- (ハ) 市では、金銭的な就学困難者に対する奨学金制度を設けるほか、医療系の就職を希望し北里学院保健衛生専門学院に進学される方を想定した奨学金制度を創設するなど、進学希望者に対する支援をしています。いただいた文面だけでは、ご意見の主旨がわかりかねるところですが、例えば、市内に公立大学を誘致し通学費用等を安価にすることで進学しやすい環境を作る、特定の大学が南魚沼市出身者の学費を低く設定できるような仕組みを構築する、といったようなご意見であれば、残念ながら、現時点ではそういった取組は困難であると考えています。
- (ニ) 市では、国際大学や市内の商工会、金融機関と連携し、新潟大学や長岡技術科学大学から協力をいただきながら、随時、市内の起業者育成や企業向けの講演会、懇談会を開催しています。企業の事業継続や開拓など、経営者向けの講演も行なっているところです。今後も、経営者の方からより関心を持っていただけるよう、実施内容の充実に取り組んでいきます。
- (ホ) 市内の企業には、学生のインターンシップを積極的に受け入れ、若者の確保に取り組んでいる企業があります。

市役所と一般企業では、雇用に基づく法律や業務内容が異なるため職員・社員の交換派遣は難しいと考えます。市としては、積極的に民間企業から様々なご意見をお聞きし、少しでも民間の皆さまに寄り添えるよう取り組んでいきます。

(担当：商工観光課)

問合せ：秘書広報課 ☎ 773-6658

◇障害者の超短時間雇用について

【ご意見・ご提案など】

私には発達障害があります。そのため一般の人と同様に働くことが難しく、また週 20 時間以上の勤務が求められる障害者雇用も高いハードルだなと感じています。

そんな折、テレビで障害者の超短時間雇用という特集を拝見しました。これは、1 日 15 分以上の勤務から始められ、職務内容を明確に定義することで障害者が就労しやすい環境をつくるというプロジェクトです。I D E A モデルと呼ばれ、東京大学の近藤武夫教授が提案しています。この取り組みには企業だけでなく自治体の協力が不可欠だそうですが、実際に研究に参加している企業・自治体では一定の成果が得られているとのことでした。

ここで要望です。南魚沼市もこの I D E A モデルに取り組んでいただけないでしょうか。もし実現すれば、私のように働きたいけれど働けない人たちにとって将来を開くきっかけになりますし、更に障害者にとって働きやすい環境を整備することは、健常者の働きやすさにもつながるはずです。ぜひご検討いただければ幸いです。よろしく願い申し上げます。

(平成 30 年 11 月 21 日)

【お返事】

「障がい者の超短時間雇用」(I D E A モデル)については、ご提案いただいたとおり、東京大学の近藤准教授と川崎市、神戸市、ソフトバンク社との間などで取り組み、研究が行われているようです。

人口減少により労働力が不足している企業と、一方で、障がいなどがあり長時間の労働が難しい方にとって、短時間労働者を複数人雇用することで障がいのある方の社会進出を促しながら、労働の合計時間で労働力不足をまかなうこの取り組みは、非常に魅力的なアイデアだと思います。

しかし、この I D E A モデルは、企業が求める仕事の種類や環境と、働く皆さんの求めるニーズとの整合性や効果検証など、まだ調査研究段階であることから、国も正式に政策と

して推進しているものではありません。

そのため、市としましてもこのIDEAモデルの今後の動向については大変興味を持っておりますが、調査研究の成果がまだ明らかでない現段階では、この取組みが製造業やサービス業が多い当地域に合うのかも含め判断できないため、今後、国などの動向を見ながら検討していきます。

このたびのご提案につきましては、前向きなご意見として、市役所内の関係部署と情報を共有し、市内企業に向けても情報の提供を行ってまいります。今後も、市民が働きやすい環境になるように努めてまいります。

(担当：商工観光課)

問合せ：秘書広報課 ☎ 773-6658

◇ウェブサイト観光ページの標記について

【ご意見・ご提案など】

観光のページの「八海山ロープウエー」の説明文を拝見して、ビックリ！”南魚沼産コシヒカリで知られているのが越後平野”、”眼下に広がるのが越後平野”とは！

また、「金城山」の説明文には、”塩沢盆地の正面”とありビックリ！「六萬騎山のカタクリ群生地」や「魚沼スカイライン」の説明文では、六日町盆地とあるのに。多くの地名事典や学校で使用する地図帳では、魚野川流域は六日町盆地としています。市民も塩沢盆地とは言っていないのでしょうか？

行政が発信する情報は、誤りや誤解を招くようでは、混乱や問題を生じさせます。

(平成 30 年 11 月 22 日)

【お返事】

はじめに「八海山ロープウエー」の紹介文中、南魚沼産コシヒカリで知られた「越後平野」を「六日町盆地」に、「眼下に広がる越後平野」を「越後平野（長岡方面）」に訂正いたしました。

次に「金城山」の紹介文中、「塩沢盆地の正面」を「塩沢駅の正面」に訂正いたしました。

今後は表現に一層注意しウェブサイトを作成いたします。このたびは貴重なご意見をいただきありがとうございます。

(担当：商工観光課)

問合せ：秘書広報課 ☎ 773-6658

◇高齢者の住宅について

【ご意見・ご提案など】

平成28年5月に60年ぶりに南魚沼に住む事になった。転入の理由は、世田谷区内で独居高齢者に賃貸の住宅が提供されなかったこと。経済的な面と転勤のある仕事で固定した持ち家を買わなかったためでもある。

然し南魚沼市でも高齢の単身者に貸してくれる家はなかった。結局建売住宅に住んでいるが、いづれ空き家を増やす結果になるだろう。どこでも問題になっている空家、老人だけの一軒家を増やさずに、市営で高齢者で単身でも入居できるマンションを建てることはできないだろうか。部屋は画一でなくとも、支払い能力に応じた間取り、家賃にしたらよい。体が不自由になったり故障が多くなり病気がちになっても地域医療は在宅を推進しているのだから、往診も介護支援も時間と労力の短縮になる。医療機関も少なく医療職も少ない地方でこの家へ出向くのも日数を要す。

寝たきり老人、認知症老人を防ぐためにも、マンションにホールをつくり運動療法やコミュニケーションルームがあればタクシーで出かけずに済む。限られた年金（だんだん減らされているが）と預金を有効に使って人生を終わりたいと願っている。

（平成30年11月28日）

【お返事】

高齢者用マンションの建設につきましては、市内の特別養護老人ホームなどの介護保険施設や、有料老人ホームなどの特定施設等の民間での設置状況を考慮すると、現状においては、行政が建設する必要性は薄いと考えています。

市では、高齢者が安心して住んでいただけるよう、住宅除雪援助事業、住宅整備費補助事業、緊急通報装置貸与事業、救急医療情報キット配布事業などといった、高齢者生活支援事業に取り組んでいます。また、市役所内に地域包括支援センターを設置して、高齢者を介護、福祉などさまざまな面から総合的に支えるために、保健師、主任ケアマネジャー、社会

福祉士などが関係機関と協力しながら生活を支援しています。市内で行われている介護予防事業としては、どなたでも参加できる「筋力づくり教室」や「ふれあいサロン」があります。「筋力づくり教室」は体操教室、ふれあいサロンは地域の方のお茶の間サロンで、地域の集落センターや公民館などで開催されています。

市では、高齢者の方のさまざまな悩みや相談事を承っております。お気軽にご相談ください。

（担当：福祉課・介護保険課）
問合せ：秘書広報課 ☎ 773-6658

◇ 除雪路線について

【ご意見・ご提案など】

市政の経費節減、除雪費の削減との名目で、近所の大事な通勤路線が4か所も（実際は3か所：泉新田田崎線、孫方線、泉中村南線のそれぞれの一部区間）今冬除雪作業が無くなります。地域住民仕事人としては朝夕の交通事情が大変気になります。工業団地も幾多有り中学合併も有り地域路線の渋滞、交通事故が懸念されます。住民税、固定資産税、事業所税を止む無く高額取られている住民としては納得いきません（ほとんど職員給与に当たる金）。職員の削減明瞭な市政をお願いします。

（平成30年11月29日）

【お返事】

ご意見をいただいた4つの除雪路線のうち、「新堀新田泉新田線（新堀新田の信号機に通じる市道）」の除雪は継続します。残りの3路線の人家の無い部分について、今冬から除雪を行わないこととしました。

市内約296kmの除雪路線の中には、交通量のかなり少ない路線や、近道として利用できるると便利、といった路線が見受けられたため、多額な費用をかけて行う除雪が本当に必要かどうかについて、平成29年度に市民代表による見直し検討委員会を組織し検討を行いました。

除雪路線の見直しにあたっては、除雪路線の指定基準を定め、効率的かつ経済的な除雪の実施を基本として検討を行ったうえで、廃止する候補路線を選定しました。その後、関係行政区長へご説明し、了承を得たうえで廃止路線を決定しました。

「泉新田田崎線」と「泉中村南線」については、交通量調査を実施し通勤車両の存在も確認していますが、県道城内焼野線及び新堀新田泉新田線があることなどから、廃止路線としました。多少遠回りになりご不便をおかけしますが、大きな交通渋滞を招いたり、交通事故の可能性が高まるものとは考えておりません。

除雪路線の見直しにつきましては、今後も部分的な見直しを行うこととしています。今冬の見直し路線の状況を確認したうえで、来年度以降の検討課題とさせていただきますので、ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

(担当：建設課)

問合せ：秘書広報課 ☎ 773-6658

◇救急医療情報キットの配布について

【ご意見・ご提案など】

高齢化が進み、高齢者が増えていて、予防医療が大切な時代となりました。現在の配布の考え方は、若手がいて、ある条件に該当しないと配布の対象にならないことになっていますが、今は、各家庭とも若手は共働きで昼間は特にいないわけで、65歳以上になるとどこか持病を持っていたり突然ケガで倒れたりするリスクが大きくなります。

そこで、65歳以上の人には配布できるようにしていただけないでしょうか。

住民からの声を聞いての意見です。

(平成 30 年 11 月 29 日)

【お返事】

ご意見をいただきました救急医療情報キットとは、持病や緊急連絡先などを記入し、冷蔵庫に保管することによって、救急隊員や医療機関に情報が伝わり、迅速な救急活動に役立っているものです。

市では、救急医療情報キットが未配布である次の世帯に対して、毎年 10 月頃から、民生委員・児童委員を通じ配布しております。

1. 65 歳以上の者で次のいずれかに該当するもの
 - (1) 一人暮らしの者
 - (2) 世帯員がすべて 65 歳以上である者
 - (3) 日中に一人又は 65 歳以上の者だけが在宅となる者で次のいずれかに該当するもの
 - ・ 認知症を発症している者
 - ・ 心臓疾患又は脳血管障害の既往歴がある者
2. 身体障害者手帳、療育手帳又は精神障害者保健福祉手帳のいずれかの交付を受けている者で次のいずれかに該当するもの
 - (1) 一人暮らしの者
 - (2) 他の世帯員がすべて 65 歳以上である者

3. その他市長が特に認めた場合

「65歳以上の人に配布できるように」とのご意見については、現状では65歳以上の方全員への一律配布はしておりませんが、上記の該当事由に準ずる世帯からの配布希望に対しては、個別に対応したいと考えております。配布いただく民生委員への説明を徹底するとともに、市報等での制度周知を図ってまいります。

(担当：福祉課)

問合せ：秘書広報課 ☎ 773-6658

◇保育園の安全対策ほかについて

【ご意見・ご提案など】

- ・ 保育園の地震時の安全の再検討と見直しを
保育園の部屋やトイレ、洗面所の棚に物が上がっているのが心配です。子供の寝ている頭の上にも棚の上に。子供の頭に落ちたらどうなるか？死にもつながると思います。ピューラックスや漂白剤（ハイターなど）も上がっています。むやみに棚の上にあげることを見直していただきたい。保育園の職員でない人の目で見ること必要だと思います。取りかえしが見つからないことにならないうちに再検討を。
- ・ 南魚沼市からお医者様を
「私〇〇大学病院から来ているので、〇月いっぱいです。」の言葉がとっても残念でした。これはもう、この地域からのお医者様を育てるしかないと思いました。そんなプロジェクトを。
- ・ 保育園の0歳児の育て。職員に講習をしていますでしょうか。哺乳瓶の傾け方など。若い保育士は学んでいるでしょうか。
- ・ 保育園の保育資格のない職員が雑用ばかりしていることのないように。

(平成30年11月30日)

【お返事】

1. 保育園の地震時の安全の再検討と見直しについて
棚などにおいてあるもので、地震時に落下が予想されるものについては、撤去するように指示しました。
2. 南魚沼市からの医師の輩出について
魚沼医療圏の人口10万人当たりの医師数は、魚沼基幹病院の開院により改善は見られましたが県平均より低い状況にあり、かつ、開業医の高齢化が進んでいます。現在、医

師不足の対策として、魚沼基幹病院から医師を派遣するなど地域全体での医師確保について検討を進めているところです。

医師の育成としては、市独自によることでなく全県的な取り組みの中で検討することが効率的かつ現実的であると考えています。県では、県医師養成修学資金等の貸与に当たって、山間地域の医療機関での研修実績等、山間地の医師確保を促進する仕組みを検討しているとのことでした。

また、医師確保の一つの方法として、当市の魅力ある自然の中でのセカンドライフを希望する中高年の医師に対して、多様な勤務を可能とした環境を整備していくことも必要と考えています。

3. 保育園の0歳児の育てについて

0歳児の担当になる保育士を中心に、乳児保育講座等の研修会を受講しています。経験不足の職員がいる場合には、園長、副園長が指導しています。

4. 保育資格のない職員の業務について

資格のない職員である保育助手は、保育士の手助けをすることが仕事で、子どもの身の回りの世話などの直接的な保育については主に保育士が担い、それ以外の業務を保育助手が担っております。業務に優先順位はあっても優劣といった考えはなく、雑用等も重要な仕事の一部です。

特定の職員に雑用が偏るのはよくありませんが、どうしても偏る場合は職員に説明し了解を得ています。

(担当：子育て支援課・保健課)

問合せ：秘書広報課 ☎ 773-6658

◇おしゃべりみーちゃんの配布について

【ご意見・ご提案など】

前略、ご苦勞様です。この前の号で、おしゃべり人形？どこかのメーカーのプレゼントがありまして、応募で独り住まいのシルバー世代に抽選でやるとの記事が出ていました。

応募抽選をやめ、シルバー世代一人住まい高齢の順にやったらいかがでしょうか。温かみのある行政を望みます。不平不満ゼロを目指してください。

前号は捨てたので、抽選の方法など間違っていたら誠にすみません。とり合えず本当に必要な人は応募できないと思いペンをとりました。係のご苦勞に対する無礼おゆるし下さい。

(平成 30 年 11 月 21 日)

【お返事】

おしゃべりみーちゃんの配布につきましては、市報掲載のとおり応募者に対する抽選を予定していましたが、応募者全員に配布できる人数しか申込みがなく応募者全員に配布させていただきました。

本当に必要な方は申し込みができないのではないかという点について、事前に高齢者で独り暮らしの方の状況が分かるケアマネージャー等に聞き取りを行いました。結果としては、「各自で置かれている状況が異なる。必要な方もいれば、認識ができない状況で無駄になる方もいる。」との回答でした。これをふまえ、寄付者である㈱パートナーズ様とも相談し、おしゃべりみーちゃんは特定の言葉に反応して会話をする機能しかないことから、一定程度の意思を示すことができる方への配布が適当と判断させていただいたものです。

ご提案にありますように、独り暮らし世帯で年齢が高い順にサービスを提供することも大事にしたいと考えております。しかし、現状を考慮すると、必ずしもその選択が最善ではないと判断したことをご理解いただければ幸いです。

(担当：U & I ときめき課)

問合せ：秘書広報課 ☎ 773-6658